

令和7年6月23日

# コミュニティ・スクール便り

板橋区立緑小学校 コミュニティ・スクール委員長 山口 正春  
校長 市之瀬 輝明



日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。6月18日（水）に、第2回コミュニティ・スクール委員会を行いました。今回は学校支援地域本部コーディネーターと教職員も参加し、「学校教育と地域との連携」について、熟議を行いました。

## 熟議

1グループ5～6名で、5グループに分かれ、「えんたくん」（直径90cmの円形ダンボールの上に円形の用紙を乗せて、意見を書き込みます。）を利用して、ワールドカフェで、地域にお願いしたいことと、各グループのテーマについて話し合いました。次に、ICS委員とコーディネーター、ホスト役の教職員を残し、他の教職員は他のグループに移動して、新たなメンバーで話し合いました。そして、全員がはじめのグループに戻り、意見を共有しました。最後に全体の場で、グループの報告をしました。

## ○環境教育・キャリア教育・起業家教育の学びを地域でどう支えるか。

- ・サンシティグリーンボランティアさんにご協力いただき、自然を生かした活動が行われている。竹、焼き芋、米、ピオトープなど
- ・低学年からのキャリア教育に、サンシティ在住の様々な職に就かれている方々から話を聞くなどの機会があるとよい。
- ・6年生6人チームで起業、テーマ「緑小のよさを伝える」。企画→商品購入→売る→利益を得る。秋祭り（10月）に予定している。



## ○防災と共助を日常の学びとどうつなぐか。

- ・地域の方との交流、震災を経験した方のお話などを聞く機会があるのもよい。
- ・学校では昨年度より、土砂災害による新しい避難訓練が実施されている。緑小周囲の木々の生育状況により倒木が起こったと考えられるのではないか。



### ○食品ロス・コンポスト・命の教育に地域がどうかかわれるか。

- コンポスト：今年度より校内でハフネファームさん富永様を中心に実施中。給食の野菜くずだけでなく、家庭から持ち込む形にできるかを検討中。
- 実際に野菜を生産する場を増やすことができるとうい。屋上の活用は可能か？
- 調理中に出た野菜くずを活用した「ミミズコンポスト」を行っている。学びを全校に発信できるとよい。

### ○「子どもが真ん中」にある学びのためにどうしたらよいか。

- 地域での「ジュニアリーダー」の活動では、子どもが中心となり行っている。最終目標は「災害時などに子どもたちがすすんで助け合う行動力を身に付ける。」である。
- 板橋区では、「学習スタンダード」を基本に「学習スタンダードS」にも取り組んでいる。子どもたち自身が自分で課題を選択、物事を考え、行動してほしい。
- 学校のルールなども、友達同士で正しいことを言い合えるとよい。

### ○「地域とともにある学校」の具体像とは何か。

- あいキッズや地域との連携が大事である。サポーター事業も多種多様なものがある。今年度の依頼例：新1年生の送迎、校外学習、5年家庭科（裁縫）、6年調理実習など。今後も教えてもらえると様々なサポートに入ることも可能。また活動内容を発信するのもよいのではないか。（広報、学校だより等）
- 銀行跡地の「アトリエ・バンライ」では、子ども食堂や各種イベントが行われている。高学年の新たな居場所となっている。



iCS 委員とコーディネーター、教職員が熟議することで、お互いの願いや考えを知りました。共通していることは、「子どもたちのために」よりよいことを取り組みたいということでした。教職員だけでは気付けない新たな視点を見付けることもでき、有意義な時間となりました。

※ 次回は 11月21日（金）13：00～を予定しています。